

保育士養成課程の教育内容等に関するアンケート調査

【結果概要】

第8回保育士養成課程等検討会

平成29年10月4日

参考資料2

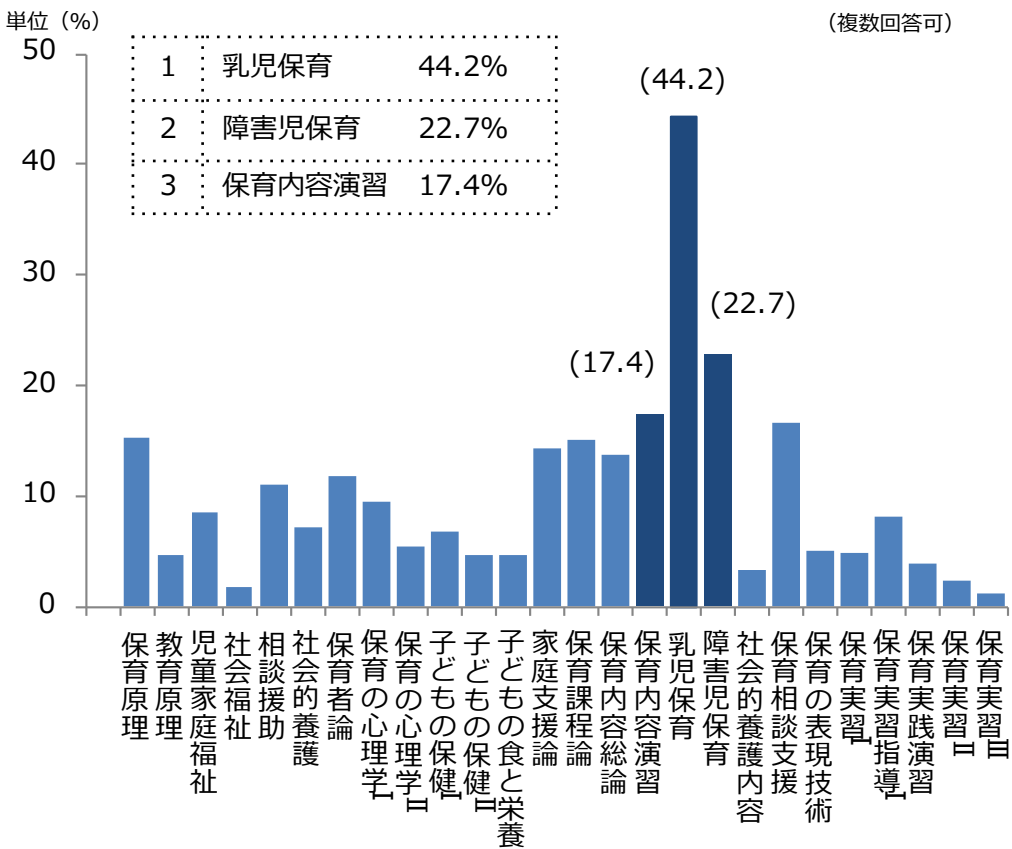
調査目的： 保育士養成課程等の見直しに向けた検討に資するよう、保育士養成を担っている指定保育士養成施設を対象に調査を行い、今後改善すべき保育士養成課程における教授内容等に関する意見を把握する。

調査対象： 指定保育士養成施設（669施設）

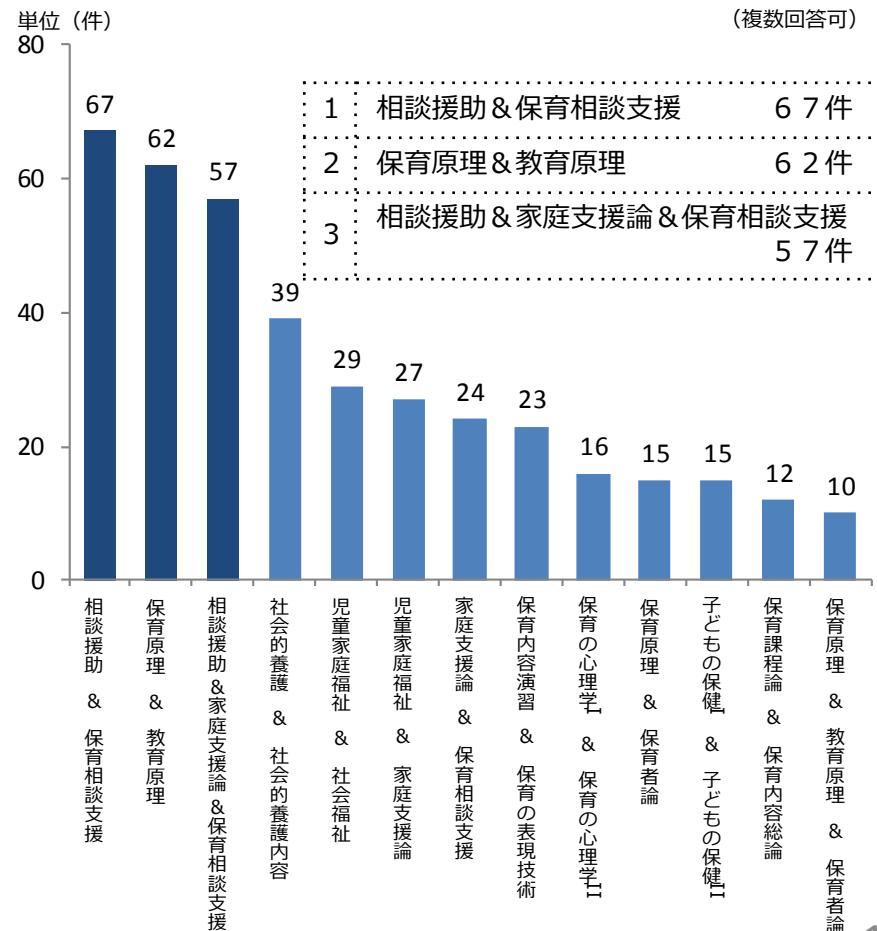
調査期間： 平成29年8月14日から同年9月1日まで

回収数： 563施設（回収率 84.2%）

1 今後、さらに充実させる必要があると考えられる科目について

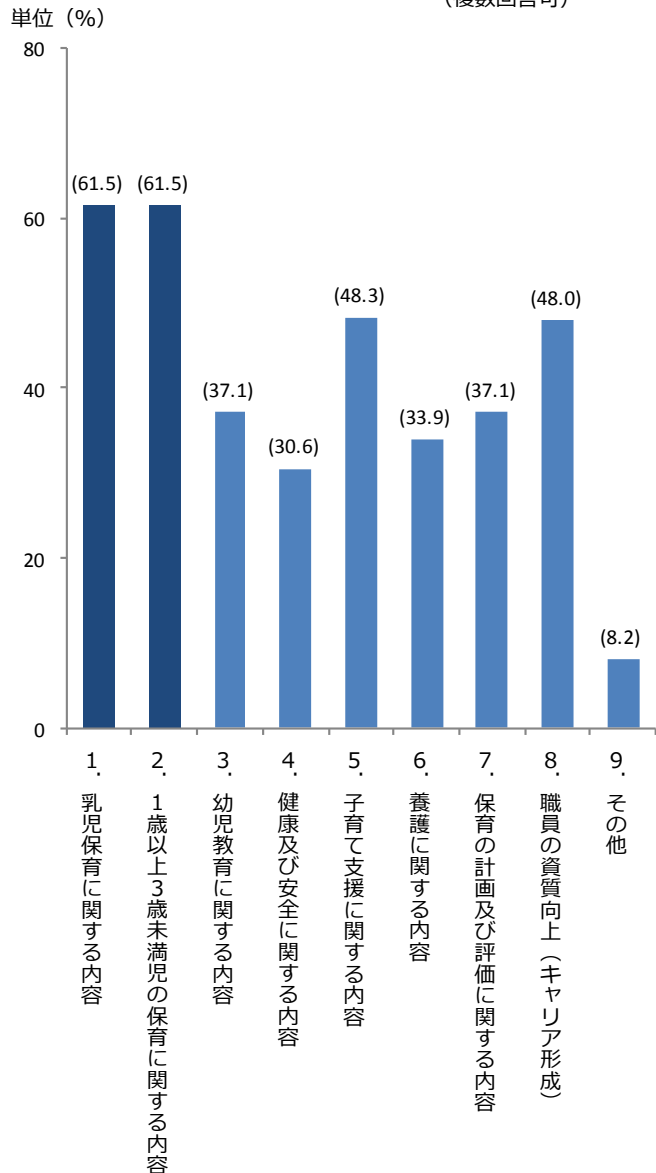


2 養成課程の必修科目において、今後、整理・統合が考えられる科目について



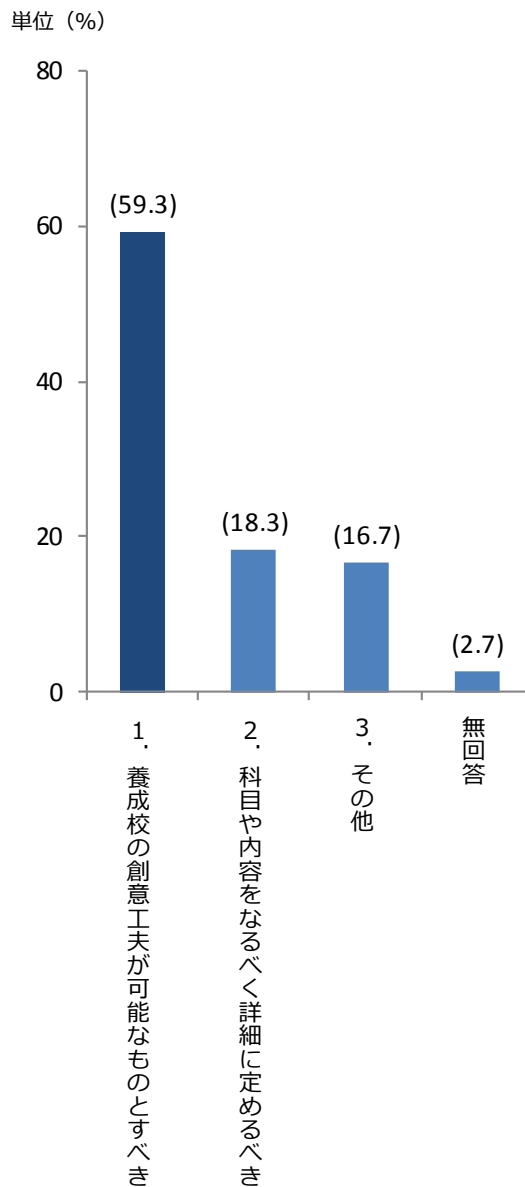
3 更に充実させることが必要な内容について

(複数回答可)



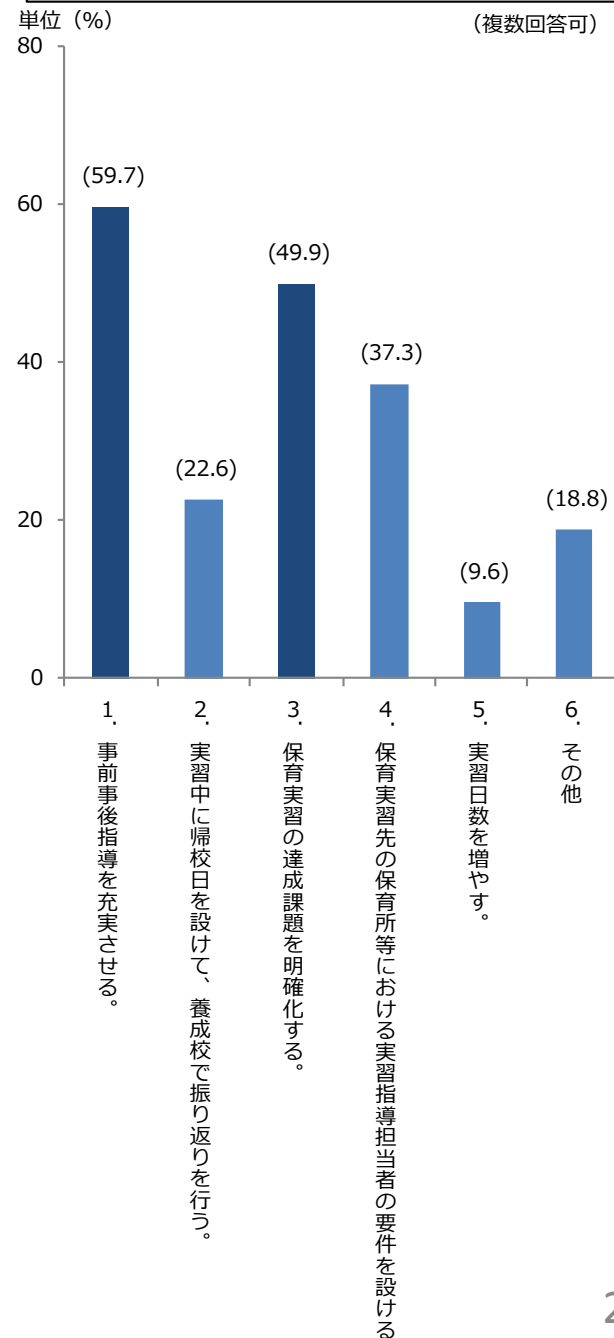
4 養成課程改定の方向性について

(いずれか一つ回答)



5 保育実習を充実させるための方策について

(複数回答可)



保育士養成課程全般に関する主な意見（自由記載）

【児童福祉の専門職としての保育士について】

- 保育士は保育所以外の児童福祉施設にも勤務しており、保育士が関わる分野は多方面にわたっている。施設種別毎に高い専門性が求められるため、基礎的な学びの上に施設毎に必要な知識、技術が高められるようなカリキュラムの検討が必要。
- 全ての保育士にとって、児童福祉施設が対象とする18歳までの、子どもの発達の理解や、特別な配慮が必要な子どもや家庭に関する理解についての知識が基礎となる。
- 保育士の就職先を踏まえると、必要な知識・技能は保育所保育の内容、乳児院や児童養護施設等の施設養護の内容、児童発達支援に関わる障害児保育の内容、相談援助に基づいた家庭支援の内容等が必要。

【社会的養護について】

- 施設保育士の専門性に関わる教授内容の充実が必要。様々な子どもの発達や特別な配慮を必要とする家庭の理解やソーシャルワークに関する理解が必要。
- 対人援助職として、コミュニケーションを図る事のできる豊かな人間性を、体験的学習（特に生活体験、自然体験）を通して身に付けていく事が望まれる。

【障害児保育について】

- 障害児保育の実践について、現場のニーズも高く、理解を深める必要がある。障害についての理解と対応が学べる科目の充実が求められていると感じる。

【実習について】

- 実践力を身につけるための実習内容の強化が必要である。実習の指導や評価の観点について、実習受け入れ保育所・施設との共有が必要だと感じる。
- 保育実習において、保育所以外の児童福祉施設で実習を行う際に必要な知識、技術等を学ぶ教育内容の充実を求める。
- 実習対象となる児童福祉施設は限られているため、実習先の拡充を求める。
- 保育実習を行う時期については、短大においては第2学年の期間内とされているが、習得した理論・知識について経験を振り返ることでより具体的な学びにつながることから、第1学年より行えるようにすることが望ましい。

【幼稚園教職課程について】

- 保育所保育指針において幼児教育を行う施設として共有すべき事項などが示されたことも踏まえ、保育内容に関する教授内容の充実が必要である。また、養成校において幼稚園教諭免許科目を同時に学習していることが多いことから、幼稚園教諭の教職課程のカリキュラムと整合性が必要である。

【その他】

- 4年制と2年制の資格を区別したそれぞれの教育課程が必要である。また、養成課程卒業後（短期大学では卒後2年の現職経験後）の国家試験を課すべきである。